授業づくり研修講座　実践レポート

　　　　東中学校　森田　明子

【単元名】　「変わり身の上話」（第１学年）

【指導のポイント】

本単元の学習目標は、「なり変わったものの特徴の捉え方や発想のおもしろさ、表現の工夫などについて交流する」ことである。自分とは異なる視点から文章を書き、出来上がった生徒作品を教材として扱うことで、学習に対する興味関心を引き出すよう努めた。また、表現の工夫について考える際に　教育ソフト「スクールタクト」を使用し、自分たちで考えた答えをタブレットPCで交流することで、お互いの作品に学び、表現の多様性、発想の面白さを味わうことができるように工夫した。

【学習の流れ】

１「吾輩は猫である」他、教科書の四つの作品を読み、自分以外の他の視点から文章を書くことについて考える。

２　自分が「なり変わりたいもの（人）」を決める。

（例）動物・植物・建物・電化製品・家具・身の回りの物　など

　思い付く事柄をノートに複数書き出し、その中から書く題材を一つに決める。

３　「なり変わりたいもの（人）」の特徴を挙げる。

　（例）大きさ・形・色・性質・機能　など

４　文章化する。（ノートに下書きをする。）→推敲作業（教師とのやり取り）

５　原稿用紙に清書する。

６　生徒の書いた作文を教材として取り上げ、本文を穴埋めの問題形式にして提示する。

　　本文の（　　　）にどのような表現が入るかを考える。

（生徒作品例）

　私は（　１　）です。仲間は人間の「枕元」や「腕」にいるけれど、私は「（　２　）」って呼ばれる、人間の子どもが通うところにいます。うわさに聞くには、仲間は大声を出して人間を起こしたり

たまに水がかかって動かなくなったりして大変らしいです。でも、私は教室につり下げられて音も出さずひっそり動いています。ひたすら、ひたすら動くだけ。簡単だけど誰にもほめられない。そんな仕事です。（　中略　）私は人に見られる仕事をしているから、たまには（　３　）してきれいにしてほしいな…。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　《答え》１：時計　２：教室　３：掃除

【振り返り】

書く題材を決めるときに、なかなか決まらない生徒もいたので、題材を決めるヒントとして「教室の中にあるもの」「自分の部屋にあるもの」を思い浮かべるようにアドバイスした。また、題材をしぼるときに時間がかかっている生徒に対しては、「自分が好きなもの」「他の人が選ばないもの」という視点で選んでみることをアドバイスした。出来上がった作品を教材化するということで、生徒たちは期待感を持って作文に取り組んでいた。お互いの作品の良さに学び、発想や視点のおもしろさ、表現の工夫について考えることができた。これからも書くための動機づけ、材料集めを大切にし、中学生ならではの柔軟な発想を大切にしていきたい。